許容度と選択率の2つの指標から見る日本語研究
「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」を例に

杉村 泰

要旨

本稿は許容度と選択率の2つの指標を利用して日本語の「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」の前接語の違いについて論じたものである。これら3語は意味が非常に似通っており、言葉で意味の違いを説明するのは困難である。そこで許容度と選択率を指標とした散布図を作り、前接語の分布の違いを視覚的に示した。先行研究では典型的に言える例について論じられてきたが、本稿では言える例から言えない例までのグラデーションを見せることにより、3語の違いをより明確に示した。

キーワード

許容度、選択率、「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」

Abstract

The purpose of this paper is to examine the difference of the proclitic (verbs and adjectives) followed by the Japanese Compound Auxiliaries "*-te naranai*", "*-te tamaranai*" and "*-te shikataganai*" using two indicators: acceptability and selection rate. It is difficult to explain the difference of these three expressions using words as their meanings are very similar. Therefore, in this paper, we show the difference of these three expressions visually by using scatter charts according to acceptability and selection rate. In preceding studies only the typical use of these three expressions have been the subject of controversy. However, we clearly demonstrated the difference of the proclitic of these three expressions by showing the gradation from acceptable use to unacceptable use.

Key words

acceptability, selection rate, *-te naranai, -te tamaranai, -te shikataganai*

A Japanese Grammar Study by Using Two Indicators: Acceptability and Selection Rate
A Case Study of *-te naranai, -te tamaranai, -te shikataganai*

Yasushi Sugimura

1 はじめに

本稿は日本語の「〜てならない」「〜てたまらない」「〜てしかたがない」の前接語の違いについて、許容度と選択率の2つの指標を利用して論じたものである。「〜てならない」「〜てたまらない」「〜てしかたがない」はいずれも動詞や形容詞に接続し、話し手の自発的感情や感覚の程度が高いことを表す表現である。この3語は意味の違いを説明するのが難しく、具体的にどのような動詞や形容詞が前接しやすいかを明らかにすることによって、意味の違いを見るのが効果的である。その際に有効なのが許容度と選択率の2つの指標である。

この研究を始めたきっかけは、ある台湾出身の留学生に「「期待されてならない」は正しい日本語か」と聞かれたことによる。その留学生は日本語の「(ら)れる」について研究していて、「期待されてならない」が言えれば「期待される」は自発であり、言えなければ可能であると判断しようとしていた。しかし、筆者も内省では判断がつかず、日本語学習者用の辞書を調べても分からなかったため、アンケート調査をすることにした。

アンケート調査で利用したのは「○×式正誤判断テスト」と「多肢選択テスト」である。「○×式正誤判断テスト」は被験者の許容意識（許容度）を見るもので、「多肢選択テスト」は被験者の選択意識（選択率）を見るものである。この2つのテストを組み合わせて使うことにより、単に「言える－言えない」または「選択する－選択しない」といった一次元的な観点ではなく、「許容度が高く実際に選択されやすい」「許容度は高いけどあまり言わない」「許容度も低く実際に選択されにくい」などの二次元的な観点から分析することができる。

2 先行研究

「〜てならない」、「〜てたまらない」、「〜てしかたがない」の意味については、以下のグループ・ジャマシイ（1998）の記述が詳しい。しかし、この記述だけでは結局どれも「〜てしかたがない」と大体同じということになり、3語の違いは不明確なままである。

「〜てならない」

自然にある感情や感覚が起こってきて自分ではコントロールできない状態を表す。押さえようとしても押さえられない状態で、そのためその感情の程度が非常に高いことを表す場合が多い。「…てならない」の前には感情や感覚や欲求を表す言葉が用いられ、ものの属性や評価についての言葉を用いると、不自然な文になる。（中略）「…てしかたがない」とほぼ同義だが、「…てしかたがない」とは違って、感情・感覚・欲求以外の言葉を用いるのは難しい。 (p.258)

「〜てたまらない」

話し手の感情・感覚・欲求の程度が激しいことを表す。（中略）「てしかたがない」とだいたい同義。 (p.256)

「〜てしかたがない」

自然に何らかの感情や感覚が起こってきて自分ではコントロールできない状態を表す。押さえようとしても押さえられない状態で、そのためその感情の程度が非常に高いことを表す場合が多い。「…てしかたがない」の前には感情や感覚や欲求を表す言葉が用いられるのが普通で、ものの属性や評価についての言葉を用いると、不自然な文になる。 (p.254)

また、Makino & Tsutsui（1986, 1995）やグループ・ジャマシイ（1998）には次のような例文が挙げられている。しかし、筆者の語感では例（1）は「気になってしかたがない」の方が言いやすく、例（2）は「暑くてたまらない」の方が言いやすく、例（3）と例（4）は「〜てならない／たまらない／しかたがない」のどれも言いにくく、「とても嫌いだ」や「泣いて、どうしようもない」と言った方が自然であると感じられる。

（1） きのうの英語の試験の結果が気になってならない。
（グループ・ジャマシイ 1998）

（2） 東京の夏は暑くてならない。 (Makino & Tsutsui 1995)

（3） 数学が嫌いでたまらない。 (Makino & Tsutsui 1986)

（4） 赤ちゃんが朝から泣いてしかたがない。 （グループ・ジャマシイ 1998）

一方、庵・高梨・中西・山田（2001）は「〜てたまらない」は我慢できないという意味を含むため「痛い、腹がすく」などの身体感覚と最もよくなじみ、「〜てならない」は思考の表現には使えるが身体感覚の表現に使うとやや不自然であるとして、次の例を挙げている。

（5）　頭が痛く｛〇てしかたがない／〇てたまらない／？てならない｝。
（庵・高梨・中西・山田2001）

（6）　学生時代のことが思い出され｛〇てしかたがない／？てたまらない／〇てならない｝。（庵・高梨・中西・山田2001）

しかしこの説明も「〜てならない」と「〜てたまらない」の特徴は示されているものの、「〜てしかたがない」の特徴までは示されていない。

これに対し、毛（2002）や杉村（2002, 2007a）ではコーパス調査[注1]やアンケート調査を利用して、これら3語に前接する動詞や形容詞の特徴について論じている。

これを受け、杉村（2007b）ではコーパス調査（WWWページ）とアンケート調査（〇×式正誤判断テスト、多肢選択テスト）の関係について論じ、杉村（2015, 2018）では日本語母語話者と中国人日本語学習者の違いについて論じている。その結果、杉村（2018）ではこれら3語の違いについて次のように指摘している。

「〜てならない」
「気がする」、「思える」、「残念だ」など自然にある思いがこみ上げてくることを表す表現と共起して、そうした思いが自然にこみ上げてきて頭から離れないほど甚だしいことを表す。

「〜てたまらない」
「寂しい」、「暑い」、「痛い」など精神的・身体的な刺激によって生じる感情・感覚表現と共起して、そうした感情や感覚の程度が耐えられないほど甚だしいことを表す。

「〜てしかたがない」
「気になる」、「腹が立つ」、「喉が渇く」など自然に湧き起こる感情や感覚

を表す表現と共起して、そうした感情や感覚の程度が制御できないほど甚だしいことを表す。

ただし、杉村（2007b, 2015, 2018）では「○×式正誤判断テスト」（許容度）と「多肢選択テスト」（選択率）の結果について論じているが、許容度または選択率の上位10語までが表で示されているだけである。そこで本稿では、調査した72語の前接語全てを許容度と選択率の2つの指標によって散布図にして、日本語話者の持つ「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」の許容意識・選択意識の違いを見ることにする。

3 調査の概要

本稿ではアンケートによる許容度調査と選択率調査を組み合わせて論じる。2つの調査の概要は以下の通りである。

○×式正誤判断テスト（許容度調査）

これは被験者に当該の表現が言えるかどうかを○×で判断してもらうものである。全被験者のうち○（言える）と答えた人の割合を許容度とする。

〔アンケート形式〕

質問　次の表現が正しいと思う場合は○を、正しくないと思う場合は×を入れて下さい。（口頭で「迷ってもどちらか1つを選んで下さい」と言い添えた。）

（　）諦めてならない　（　）味がしてならない　（　）焦ってならない

以下略　全72語

これと同様のアンケートを「～てたまらない」と「～てしかたがない」にも実施した。

〔被験者〕

名古屋大学1年生：「～てならない」58人、「～てたまらない」50人、「～てしかたがない」50人（2004年11月～2005年7月実施）

多肢選択テスト（選択率調査）

これは被験者に当該の表現が「〜てならない」「〜てたまらない」「〜てしかたがない」「どれも不自然」のうち最も適当なものを1つ選んでもらうものである。全被験者のうち各項目を選んだ人の割合を選択率とする。

〔アンケート形式〕

質問　次の括弧の中に「ならない」、「たまらない」、「しかたがない」のうち、最もふさわしいと思うもの1つを入れて下さい。（口頭で「どれも当てはまらない場合は×を入れて下さい」と言い添えた。）

諦めて（　　）　味がして（　　）　焦って（　　）

以下略　全72語

〔被験者〕

名古屋大学1年生50人（2013年10月実施）

上記2つのテストでは以下の72語の前接語（動詞45語、形容詞27語）を使用した。これらの語はCD-ROM版「新潮文庫の100冊」において「〜てならない」「〜てたまらない」「〜てしかたがない」のいずれかと共起しやすかったものを中心に、筆者の関心によって広義の心理・感情を表す動詞と形容詞および非心理動詞と属性形容詞を選定した。

心理動詞A：自然に湧き上がって来る感情を表す動詞

（気がする、気になる、気がつく、感じる、感じられる、案じられる、期待される、想像される）

心理動詞B：ある種の感情を表す動詞（「〜スルナ」の形で禁止を表し、相対的に心理動詞Aよりも感情のコントロールが効きやすい）

（焦る、慌てる、忘れる、諦める、感動する）

思考動詞：脳による思考活動を表す動詞

（思う、思える、思われる、思いつく、考える、考えられる、考えつく、分かる、分からない）

生理動詞：人の生理的反応を表す動詞
（喉が渇く、腹が減る）
知覚・感覚動詞：人の感覚器官を通して感じる心理過程を表す動詞
（見える、聞こえる、におう、かおる、味がする、痛む）
感情動詞：外界の刺激に反応する人の心理作用を表す動詞
（腹が立つ、怒る、怒れる、笑う、笑える、泣く、泣ける）
非心理動詞：心理活動を表さない動作動詞や変化動詞
（食べる、寝る、見る、聞く、起こる、沸く）
被動動詞：後に受身の接辞「（ら）れる」が付いた動詞
（間違われる、聞かれる）
感情形容詞：外界の刺激に反応する人の心理作用を表す形容詞
（寂しい、うれしい、恐ろしい、怖い、楽しい、残念だ、嫌だ、嫌いだ、好きだ）
感覚形容詞：人の感覚器官を通して感じる心理活動を表す形容詞
（うるさい、苦しい、痛い、冷たい、暑い、寒い、暖かい、涼しい、おいしい、まずい、甘い、辛（から）い）
属性形容詞：人や事物に備わる性質や特徴を表す形容詞
（広い、狭い、物価が高い、赤い、静かだ、元気だ）

4 許容度と選択率から見た前接語の特徴

本節では許容度と選択率の2つの指標による散布図を利用して、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」の前接語の特徴を見る。図1～3の散布図においてx軸は許容度、y軸は選択率を表している。各グラフの中の左から右に伸びる線は線形近似曲線である。この散布図で①右上に行くほど許容度が高く選択されやすいもの、②右下に行くほど許容度は高いが選択されにくいもの、③左下に行くほど許容度が低く選択されにくいもの、④左上に行くほど許容度は低いが選択されやすいものが来る。これを端的に示すと表1のようになる。

表1　図1～3の概念図

③許容度は低いが 選択されやすい	①許容度が高く 選択されやすい
④許容度が低く 選択されにくい	②許容度は高いが 選択されにくい

4.1「～てならない」の特徴

まず「～てならない」の前接語の特徴から見る。図1を見ると、右上の許容度が80%以上で選択率が50%以上[注2]の範囲には「気がする」「思える」「残念だ」が来ており、そのすぐ外側には「思われる」「感じる」が来ている。このことから「～てならない」は先の心理動詞Aに付きやすいことが分かる。

一方、右下の許容度が80%以上で選択率が20%以下の範囲には「寂しい」「うるさい」「嫌だ」「喉が渇く」が来ており、そのすぐ外側には「気になる」が来ている。これらの語は「～てならない」でも言えなくはないが、「～てたまらない」または「～てしかたがない」の方が付きやすいものである。

また、左下の許容度が20%以下で選択率も20%以下の範囲には「沸く」「食べる」のような非心理動詞、「広い」「赤い」のような属性形容詞、「泣く」「笑う」のような「～スルナ」の形で禁止を表せる感情動詞、「暖かい」「涼しい」のようなプラスの意味の感覚形容詞などが来ている。このことから、これらの語は「～てならない」の前接語としては馴染まないことが分かる。

最後に、左上の許容度が20%以下で選択率が50%以上の範囲には「考える」が来ている。許容度が低いのに選択されるというのは普通考えにくく、被験者が「考えてはいけない」の意味で「考えてならない」を捉えた可能性もある。しかし、調査の際に口頭で「「してはいけない」の意味で解釈しないように」と念を押しておいたため、必ずしもこれだけが要因ではないと思われる。ここで範囲を許容度が40%以下で選択率が40%以上のところにまで広げると、「考

えられる」「感じる」「味がする」が入り、さらにそのすぐ外側には「想像される」「感じる」「思う」「気がつく」などが来ている。このように思考動詞や心理動詞Aの一部には、許容度はさほど高くなくても選択率が相対的に高くなるものがある。このように「〜てならない」には「〜てたまらない」や「〜てしかたがない」に比べて相対的に左上の部分に来る語が多いという特徴が見られる。これは多肢選択テストで敢えて1つ選ぶとしたら、感情・感覚形容詞に付きやすい「〜てならない」や、生理動詞に付きやすい「〜てしかたがない」ではなく、心理動詞Aに付きやすい「〜てならない」を選ぼうという判断が働いたためであると考えられる。

4.2「〜てたまらない」の特徴

次に「〜てたまらない」の前接語の特徴を見る。図2を見ると、右上の許容度が80%以上で選択率が50%以上の範囲には「痛い」「暑い」「おいしい」などの感覚形容詞や「好きだ」「うれしい」「寂しい」などの感情形容詞が合わせて11語来ている。このことから、精神的・身体的な刺激を表す感情・感覚形容詞は「〜てたまらない」に付きやすいことが分かる。

一方、右下の許容度が80%以上で選択率が20%以下の範囲には「気になる」と「気がする」が来ている。これらの語は「〜てたまらない」でも言えなくはないが、「気がしてならない」「気になってしかたがない」の方が言いやすいため、選択率が低くなっている。

また、左下の許容度が20%以下で選択率も20%以下の範囲には「沸く」「食べる」のような非心理動詞、「諦める」「慌てる」のような心理動詞B、「考える」「思いつく」のような思考動詞、「見る」「見える」のような知覚動詞、「笑う」「泣く」のような非自発的な感情動詞など21語が来ている。

最後に、左上の許容度が40%以下で選択率が40%以上の範囲にはどの語も来ておらず、許容度が低いのに選択されやすいものは見られない。この点で「〜てならない」とは異なっている。

以上のことから、「〜てたまらない」は「〜てならない」に比べて感情・感覚形容詞に付きやすく、非自発的な動詞には付きにくいことが分かる。

4.3「～てしかたがない」の特徴

次に「～てしかたがない」の前接語の特徴を見る。図3を見ると、右上の許容度が80％以上で選択率が50％以上の範囲には「気になる」「喉が渇く」「腹が立つ」が来ており、そのすぐ外側には「笑える」「腹が減る」が来ている。このことから「～てしかたがない」は生理動詞や自発的な感情動詞に付きやすいことが分かる。

一方、右下の許容度が80％以上で選択率が20％以下の範囲には「気がする」「苦しい」「痛い」が来ている。これらの語は「～てしかたがない」でも言えなくはないが、「気がしてならない」「苦しくてたまらない」「痛くてたまらない」の方が言いやすいため、選択率が低くなっている。

左下の許容度が20％以下で選択率も20％以下の範囲には「食べる」「見る」「聞く」のような非心理動詞を中心に11語が来ている。これは「～てならない」に似ているが、特に動作動詞は「～てならない」の場合より許容度も選択率も下がる傾向が見られる。

左上の許容度が40％以下で選択率が40％以上の範囲にはどの語も来ておらず、許容度が低いのに選択されやすいものは見られない。この点で「～てたまらない」に似ており、「～てならない」とは異なっている。

5 まとめ

以上、本稿では散布図を利用して許容度と選択率の2つの指標から日本語の「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」の前接語の違いを見た。これにより、「暑くてならない」（許容度67.2％、選択率9.2％）や「気になってならない」（同77.6％、19.5％）は許容度はやや高いもののあまり選択されない表現で、「暑くてたまらない」（同98.0％、66.7％）や「気になってしかたがない」（同100％、69.0％）の方が自然であることや、「期待されてならない」（同34.5％、27.6％）はやや不自然な表現であることが分かる。ここで最初の留学生の質問に戻ると、「期待される」は自発ではなく可能の可能性が高いということになる。

〈名古屋大学〉

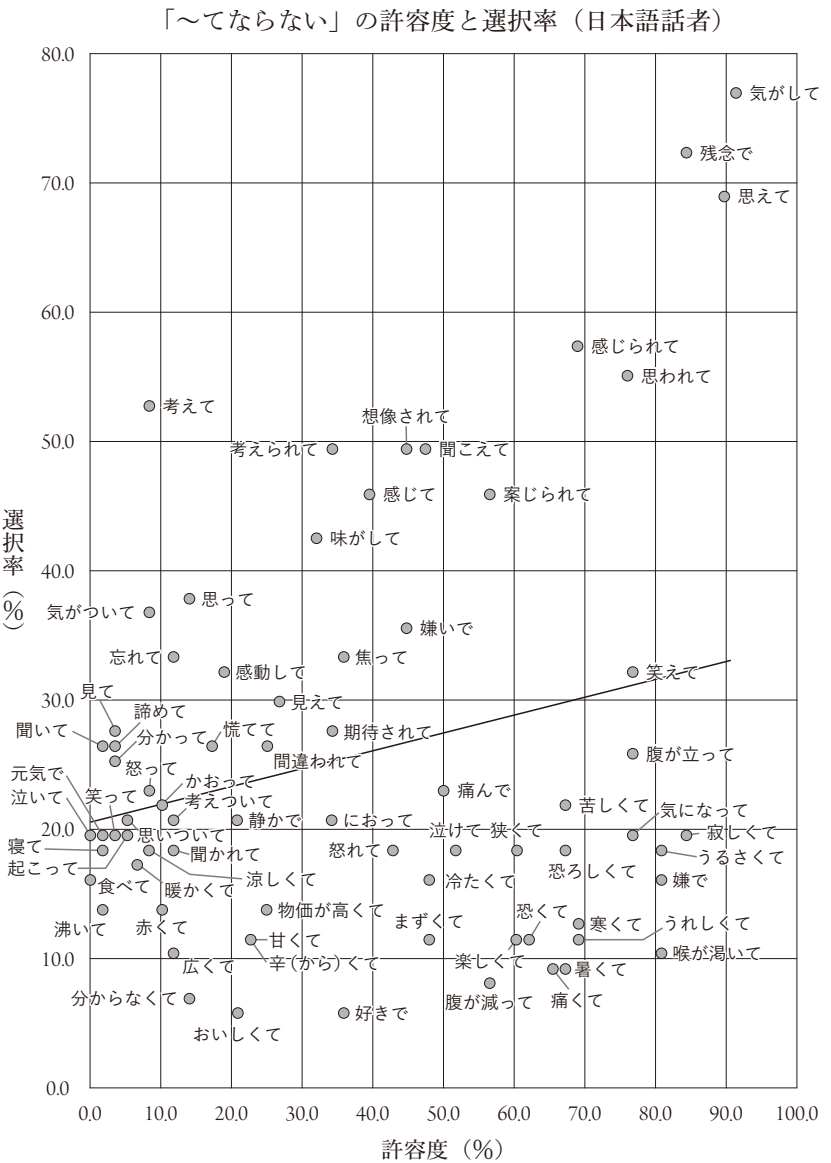

図1 「～てならない」の許容度と選択率の対応

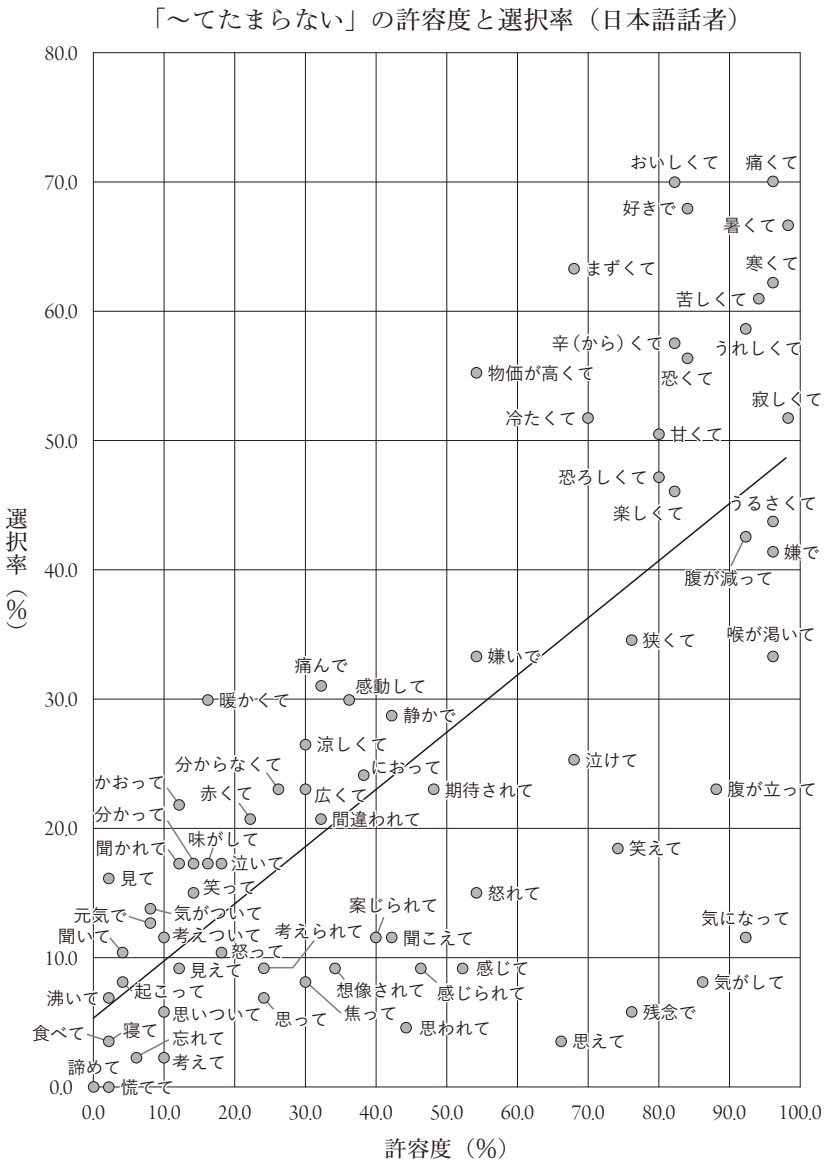

図2 「～てたまらない」の許容度と選択率の対応

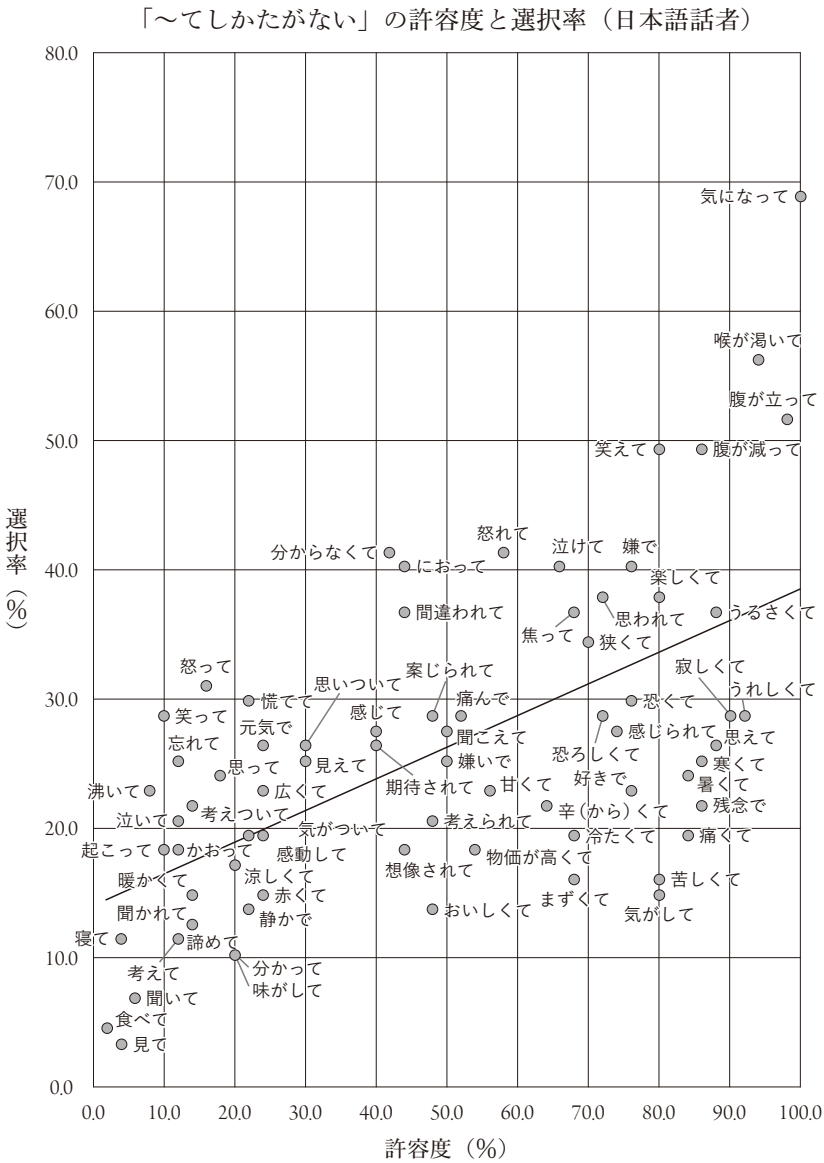

図3 「～てしかたがない」の許容度と選択率の対応

注

［注1］…… 毛（2002）は小説、シナリオ、新聞をコーパスとしており、杉村（2007）はCD-ROM版「新潮文庫の100冊」、「茶漉」、WWWページ（goo検索）をコーパスとしている。この他、鄭・小池・舩橋（2009）と杉村（2018）では現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）を使用している。

［注2］…… 許容度や選択率がどれぐらいあると高い（低い）と判断されるかはケースバイケースであるが、一般的に許容度が80％以上あれば高いと思われる。また、四者択一で50％以上あれば選択率は高いと思われる。

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

グループ・ジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

杉村泰（2002）「コーパス調査による文法性判断の有効性―「～てならない」を例にして」『日本語教育』114, pp.60–69.　日本語教育学会

杉村泰（2007a）「「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の使い分け―日本語母語話者と日本語学習者の比較」『世界の日本語教育』17, pp.1–15.　国際交流基金

杉村泰（2007b）「試論語料庫調査和問卷調查在語法研究上的異同―以日語複合助動詞“～てならない”、“～てたまらない”、“～てしかたがない”為例」『日語研究』5, pp.155–168.　商務印書館

杉村泰（2015）「日本語話者と中国語話者の「～てならない」と「～てたまらない」―○×式正誤判断テストと四者択一テストの比較」劉暁芳（主編）『日語教育与日本学研究―大学日語教育研究国際研討会論文集（2014）』pp.1–5.　華東理工大学出版社

杉村泰（2018）「中国語話者における日本語の複合助辞「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の前接語の選択」『中国語話者のための日本語教育研究』9, pp.1–16.　中国語話者のための日本語教育研究会

鄭惠先・小池真理・舩橋瑞貴（2009）「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の使い分け―日本語学習者に対する指導への応用」『北海道大学留学生センター紀要』13, pp.4–20.　北海道大学留学生センター

毛文偉（2002）「试析复合辞“～テナラナイ”, “～テショウガナイ”, “～テタマラナイ”的异同―语料库统计法在语法研究中的应用一列」『解放军外国语学院学报』25(3), pp.62–66.　解放军外国语学院

Makino, S., & Tsutsui, M. (1986) *A Dictionary of Basic Japanese* Grammar. Tokyo: The Japan Times.

Makino, S., & Tsutsui, M. (1995) *A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar*. Tokyo: The Japan Times.